

7 事後調査の結果

7.1 大気汚染

7.1.1 調査事項

調査事項は、表 7.1-1 に示すとおりである。

表 7.1-1 調査事項（大気汚染：工事の完了後）

区 分	調 査 事 項
予測した事項	①駐車場利用車両の走行に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度 ②関連車両の走行に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度 ^注
予測条件の状況	<p>【共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気象の状況（風向・風速） ・ バックグラウンド濃度の状況（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） <p>【駐車場利用車両の走行に関する予測条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場利用車両の状況（種類、台数、走行速度等） <p>【関連車両の走行に関する予測条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道路の状況（幅員、車線数） ・ 関連車両の状況（種類、台数、時間帯、走行速度） ・ 自動車交通量の状況（種類、台数、時間帯、走行速度）
環境保全のための措置の実施状況	<p>【駐車場利用車両の走行に対する環境保全のための措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 搬入・搬出の物流車両の規制速度の遵守を徹底する。 ・ 場内の速度規制の遵守を徹底する。 ・ 駐車場内においても、「環境確保条例」（平成12年12月、都条例第215号）に基づき、利用者に対してアイドリングストップを行うよう掲示等により周知する。 ・ 荷さばき車両の規制基準遵守を徹底するほか、荷さばきスペース到着後は速やかにエンジンを停止し、排出ガスの低減を図る。 ・ 来客者に対する駐車場の適正利用を徹底し、大気汚染の防止に努める。 <p>【関連車両の走行に対する環境保全のための措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 車の出入りに関しては、左折イン、左折アウトを徹底するとともに、交通誘導員による適切な車両・歩行者の誘導を行い、周辺道路の渋滞を生じさせないよう配慮する。 ・ 駐車場内での誘導路の確保により混雑の緩和及び渋滞の防止に配慮する。 ・ 来客者に対して、バス等の公共交通機関の利用を呼びかける。 ・ 従業員の通勤は原則、公共交通機関によるものとする。 ・ 物流の効率化を図り、荷さばき車両台数の低減に努める。 <p>【工事の完了後のその他の環境保全のための措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 苦情対応窓口を設け、きめ細やかな住民対応を行う。 ・ 登校時及び下校時の児童生徒の交通安全の確保に特に配慮する計画とし、当該道路が通学路であること、また、徐行を促す等の案内の掲示等により周知徹底し、生活道路への流出入を防ぐ措置を講じる。 ・ 周辺道路の渋滞対策として、駐車場は基本的に有料化する計画とする。また、入庫時については、入口から駐車券発券機までの距離を確保し、できる限り計画地内で滞留台数を確保する。なお、万葉けやき通りの西側入口が渋滞している場合には、東側の入口に誘導するなどの措置を講じる。 ・ 来店車両の経路については、誘導看板の設置、チラシ等により、周知徹底する。 ・ 供用後は、より一層の交通安全対策を図ることを目的に地域コミュニティと連携し、交通安全を確保する。 ・ 来店車両が一部の道路に集中しないように、来店車両を分散できる交通計画を策定し、道路管理者、交通管理者等の関係機関と協議する。

注. 関連車両の走行に伴う浮遊粒子状物質については、道路沿道で測定機器の設置場所を確保することが困難であることなどから、予測条件とした関連車両台数に基づき推定した。

7.1.2 調査地域

調査地域は、事業の実施により、大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質）に影響が及ぶと考えられる、計画地内及び計画地周辺とした。

7.1.3 調査手法

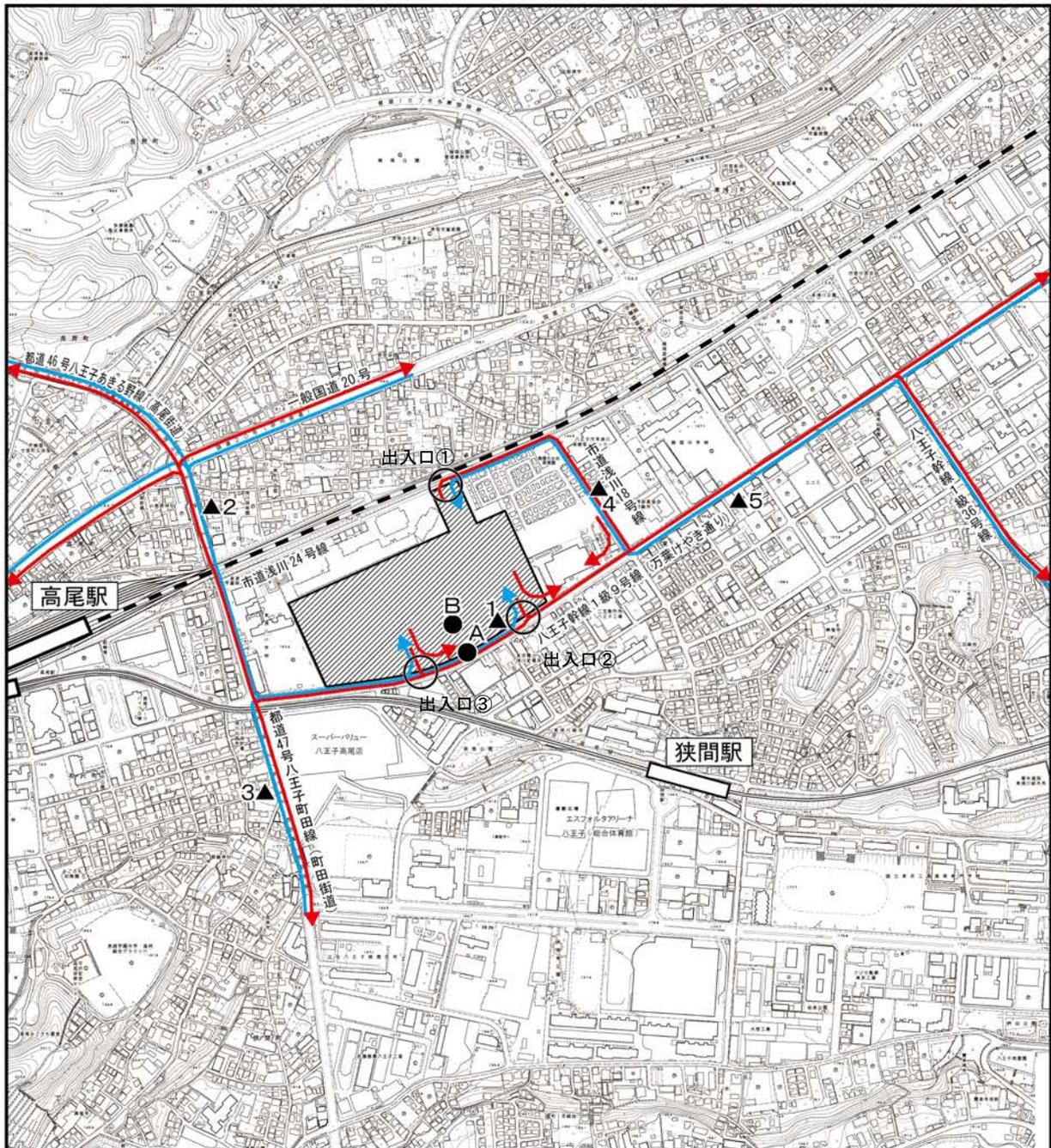
調査手法は、表 7.1-2(1)～(2)に示すとおりである。

表 7.1-2(1) 調査手法（大気汚染：工事の完了後）

調査事項		①駐車場利用車両の走行に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度	②関連車両の走行に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度
調査時点		施設の供用開始後の平成29年とした。	
調査期間	予測した事項	【二酸化窒素（NO₂）、浮遊粒子状物質（SPM）】 代表的な1週間とし、平成29年11月24日（金）～11月30日（木）の1週間とした。	【二酸化窒素（NO₂）】 駐車場利用車両の走行に伴う調査と同期間とした。
	予測条件の状況	【気象・バックグラウンド濃度の状況】 「予測した事項」と同一期間とした。	
		【駐車場利用車両の状況】 平日：平成29年11月27日（月）午前10時～午後10時までの営業時間内とした。 休日：平成29年11月26日（日）午前10時～午後10時までの営業時間内とした。	【関連車両・一般車両・道路の状況】 平日：平成29年11月27日（月）午前6時～11月28日（火）午前6時までの24時間 休日：平成29年11月25日（土）午後10時～11月26日（日）午後10時までの24時間
	環境保全のための措置の実施状況	供用開始後の適宜とした。	
調査地点	予測した事項	予測により求められた最大着地濃度地点の周辺1地点（No. A）とした（図7.1-1参照）。	関連車両の走行ルート沿道の5地点（No. 1～5）とした（図7.1-1参照）。
	予測条件の状況	【気象の状況】 計画地内の1地点（No. B）とした（図7.1-1参照）。	
		【バックグラウンド濃度の状況】 館町測定室、大楽寺町測定室（図7.1-2参照）とした。	
		【駐車場利用車両の状況】 関連車両の出入口3地点とした（図7.1-1参照）。	【関連車両の状況】 関連車両の出入口3地点とした（図7.1-1参照）。 【自動車交通量・道路の状況】 関連車両の走行ルート上の5地点（No. 1～5）とした（図7.1-1参照）。
環境保全のための措置の実施状況	計画地内及び計画地周辺とした。		

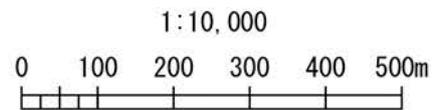
表 7.1-2(2) 調査手法（大気汚染：工事の完了後）

調査事項		①駐車場利用車両の走行に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度	②関連車両の走行に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度
調査手法	予測した事項	<p>【二酸化窒素】 「二酸化窒素に係る環境基準について」（昭和53年環境庁告示第38号）に定める測定方法及び簡易測定法（PTIO法）とした。</p> <p>【浮遊粒子状物質】 「大気の汚染に係る環境基準について」（昭和48年環境庁告示第25号）に定める測定方法とした。</p>	<p>【二酸化窒素】 簡易測定法（PTIO法）とした。</p>
	予測条件の状況	<p>【気象の状況】 「地上気象観測指針」（気象庁）に定める測定方法とした。</p>	
		<p>【バックグラウンド濃度の状況】 既存資料調査とし、観測値の整理による方法とした。</p>	
		<p>【駐車場利用車両の状況】 ハンドカウンターによる計測（大型車、小型車の2車種分類）及び関連資料（駐車場管理資料等）の整理による方法とした。</p>	<p>【関連車両の状況】 ハンドカウンター等による計測（大型車、小型車の2車種分類）及び関連資料（駐車場管理資料等）の整理による方法とした。</p> <p>【自動車交通量の状況】 ハンドカウンター等による計測（大型車、小型車の2車種分類）とした。</p> <p>【道路の状況】 現地確認（写真撮影等）及び関連資料の整理による方法とした。</p>
環境保全のための措置の実施状況	<p>現地確認（写真撮影等）及び関連資料の整理による方法とした。</p>		



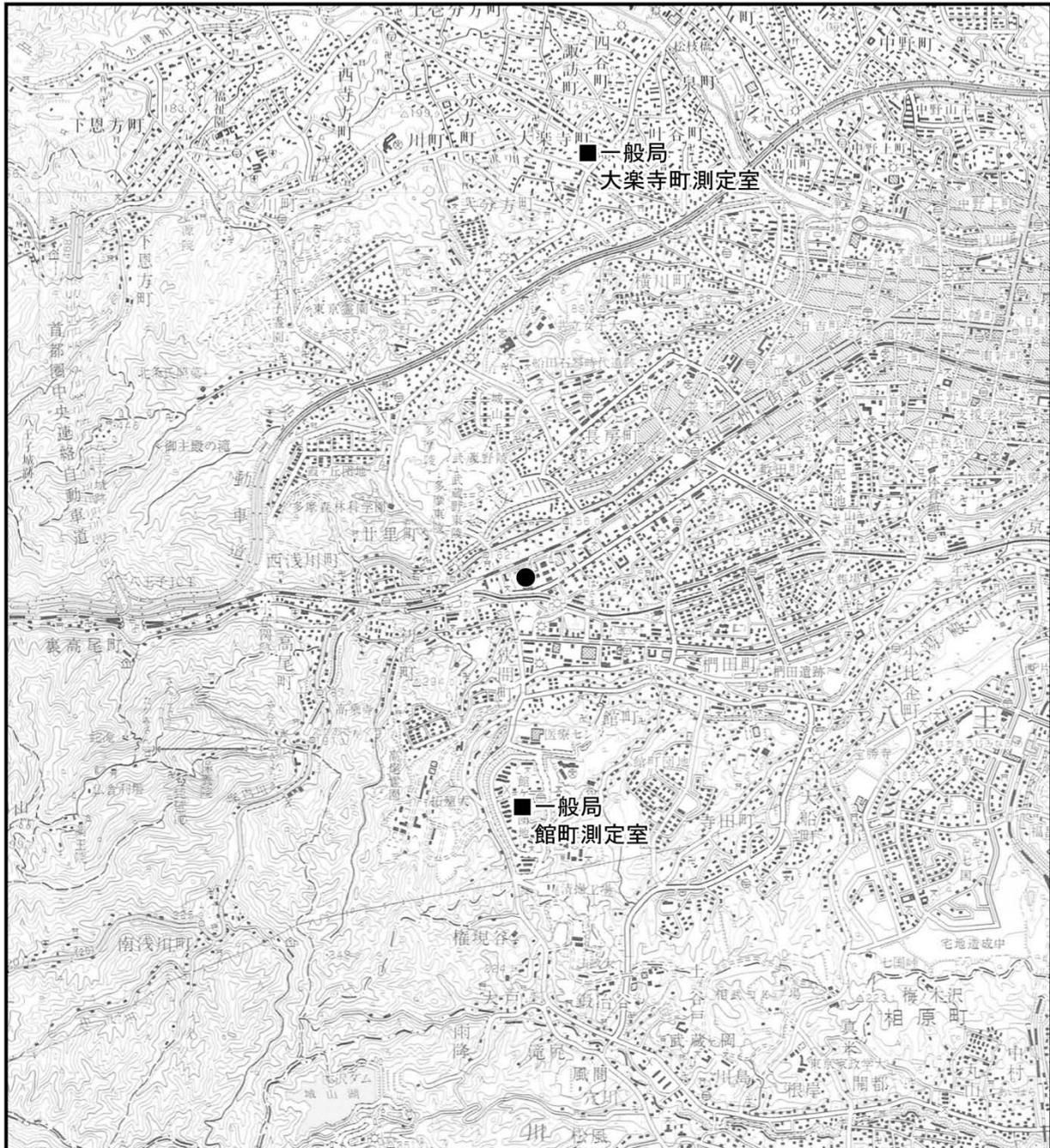
凡例

-  : 計画地
-  : JR中央線
-  : 京王高尾線
-  : 入庫経路 (関連車両)
-  : 出庫経路 (関連車両)
- A : 駐車場利用車両の走行に伴う大気質 (NO₂(公定法・簡易測定法), SPM) 調査地点
- B : 気象調査地点
- ▲ 1~5 : 関連車両の走行に伴う大気質 (NO₂簡易測定法) 調査地点
- : 関連車両調査地点 (出入口)



©ミッドマップ東京

図 7.1-1 大気汚染調査地点位置図 (工事の完了後 : 現地調査)

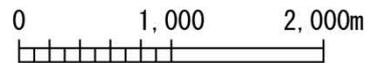


凡 例

- : 計画地
- : 常時監視測定室



1:50,000



出典：「大気汚染常時監視測定局」（平成27年4月、東京都環境局HP）
 国土地理院 1:50,000 地形図 八王子（平成21年1月1日発行1刷）
 上野原（平成21年5月1日発行1刷）
 五日市（平成9年7月1日発行4刷）
 青梅（平成9年1月1日発行5刷）

図 7.1-2 大気汚染調査地点位置図（既存資料調査）

7.1.4 調査結果

(1) 駐車場利用車両の走行に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気における濃度

ア 予測した事項

①二酸化窒素 (NO₂)

二酸化窒素の測定結果は表 7.1-3 及び表 7.1-4 に示すとおりである。

測定期間中における日平均値の最大値は 0.025ppm であり、参考ながら環境基準を満足している。

測定日別の測定結果は、日平均値は 0.017～0.025ppm、1 時間値の最大値は 0.028～0.040ppm の範囲であった。

また、測定期間中における 1 時間値の最大値が観測された日時は平成 29 年 11 月 29 日 (水) の午後 5 時であり、日平均値の最大値が観測された日は平成 29 年 11 月 29 日 (水) であった。

表 7.1-3 駐車場利用車両の走行に伴う二酸化窒素濃度の測定結果

調査地点	有効測定日数	測定時間	期間平均値	1 時間値の最大値	日平均値の最大値
	日	時間	ppm	ppm	ppm
A	7	168	0.020	0.040	0.025

※環境基準

1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm のゾーン内又はそれ以下であること。

表 7.1-4 駐車場利用車両の走行に伴う二酸化窒素濃度の測定結果 (日別結果)

測定日 (曜日)	日平均値 (ppm)	1 時間値の最大値 (ppm)	1 時間値の最大値の出現時刻
平成 29 年 11 月 24 日 (金)	0.017	0.028	午後 5 時
平成 29 年 11 月 25 日 (土)	0.022	0.038	午後 6 時
平成 29 年 11 月 26 日 (日)	0.018	0.031	午後 11 時
平成 29 年 11 月 27 日 (月)	0.020	0.030	午前 0 時
平成 29 年 11 月 28 日 (火)	0.019	0.029	午後 5、6 時
平成 29 年 11 月 29 日 (水)	0.025	0.040	午後 5 時
平成 29 年 11 月 30 日 (木)	0.020	0.031	午前 7 時

注. 網掛けの箇所は日平均値、1 時間値の最大値の最大濃度であることを示す。

測定期間中における二酸化窒素の1時間値の変動及び館町測定室及び大楽寺町測定室との相関は、図7.1-3に示すとおりである。

現地調査（地点A）と館町測定室・大楽寺町測定室は、ほぼ同様の傾向で変動していた。また、地点Aにおける二酸化窒素濃度は、館町測定室・大楽寺町測定室に比べてやや高い傾向であった。

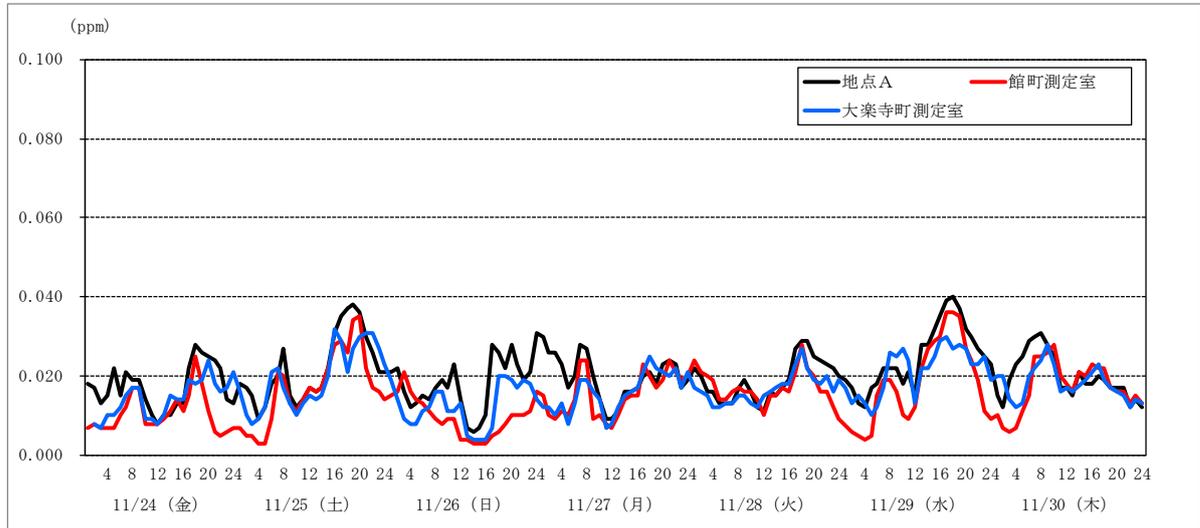


図 7.1-3(1) 二酸化窒素濃度の測定結果（1時間値の変動図）

【館町測定室】

【大楽寺町測定室】

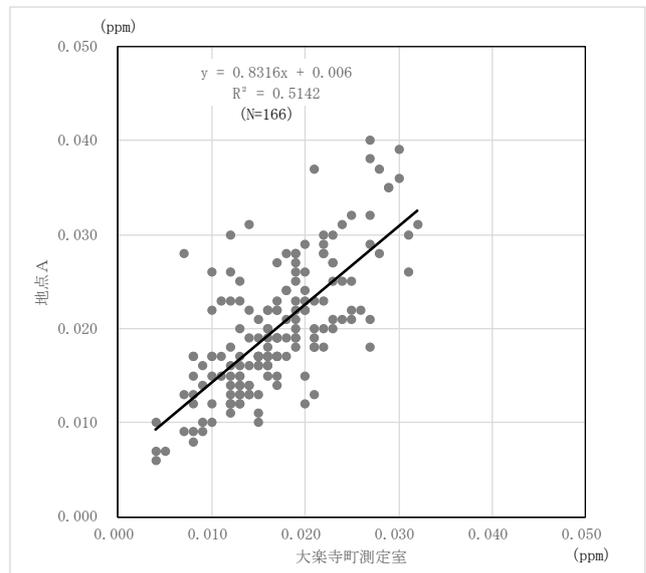
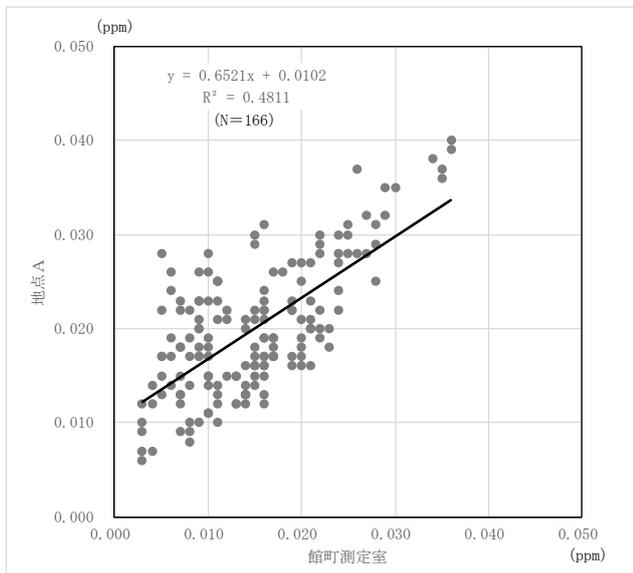


図 7.1-3(2) 二酸化窒素濃度の測定結果（館町測定室・大楽寺町測定室との相関）

②浮遊粒子状物質（SPM）

浮遊粒子状物質の測定結果は表 7.1-5 及び表 7.1-6 に示すとおりである。

日平均値の最大値は 0.017mg/m³、1 時間値の最大値は 0.041mg/m³ であり、参考ながら環境基準を満足している。

測定日別の測定結果は、日平均値は 0.004～0.017mg/m³、1 時間値の最大値は 0.011～0.041mg/m³ の範囲であった。

また、測定期間中における 1 時間値の最大値が観測された日時は平成 29 年 11 月 30 日（木）の午後 2 時であり、日平均値の最大値が観測された日は平成 29 年 11 月 28 日（火）であった。

表 7.1-5 駐車場利用車両の走行に伴う浮遊粒子状物質濃度の測定結果

調査地点	有効測定日数	測定時間	期間平均値	1 時間値の最大値	日平均値の最大値
	日	時間	mg/m ³	mg/m ³	mg/m ³
A	7	168	0.011	0.041	0.017

※環境基準

1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m³ 以下であり、かつ、1 時間値が 0.20mg/m³ 以下であること。

表 7.1-6 駐車場利用車両の走行に伴う浮遊粒子状物質濃度の測定結果（日別結果）

測定日（曜日）	日平均値（mg/m ³ ）	1 時間値の最大値（mg/m ³ ）	1 時間値の最大値の出現時刻
平成 29 年 11 月 24 日（金）	0.004	0.011	午前 0 時
平成 29 年 11 月 25 日（土）	0.008	0.030	午後 7 時
平成 29 年 11 月 26 日（日）	0.010	0.026	午後 4 時
平成 29 年 11 月 27 日（月）	0.010	0.022	午後 7 時
平成 29 年 11 月 28 日（火）	0.017	0.035	午後 4 時
平成 29 年 11 月 29 日（水）	0.014	0.033	午後 3 時
平成 29 年 11 月 30 日（木）	0.014	0.041	午後 2 時

注. 網掛けの箇所は日平均値、1 時間値の最大値の最大濃度であることを示す。

測定期間中における浮遊粒子状物質の1時間値の変動及び館町測定室及び大楽寺町測定室との相関は、図7.1-4に示すとおりである。

現地調査(地点A)と館町測定室及び大楽寺町測定室は、ほぼ同様の傾向で変動していた。また、地点Aにおける浮遊粒子状物質濃度は、館町測定室及び大楽寺町測定局とほぼ同様の濃度であった。

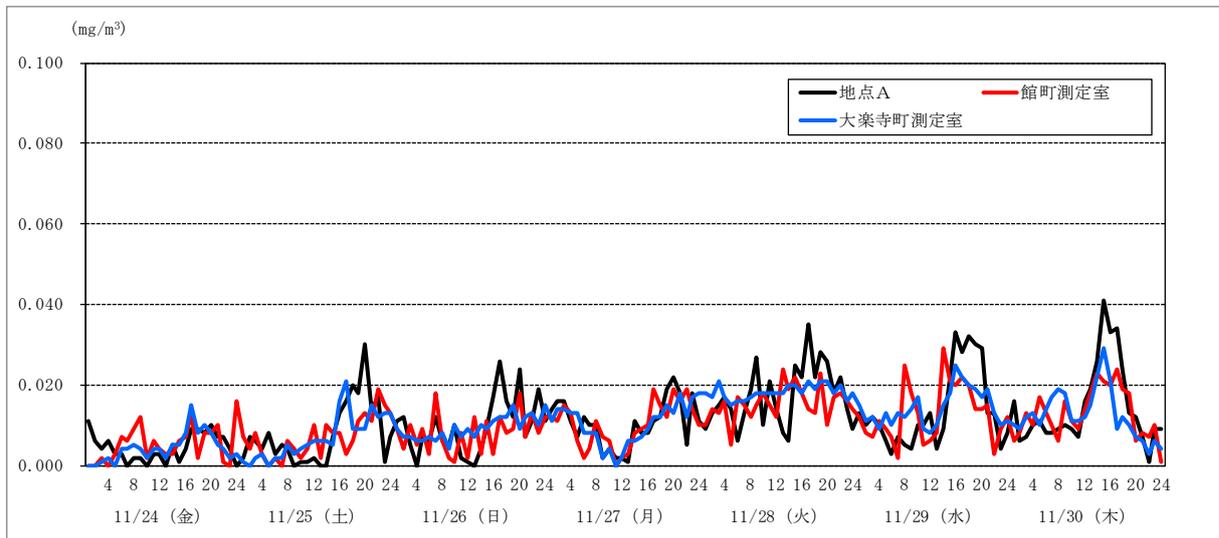


図7.1-4(1) 浮遊粒子状物質濃度の測定結果(1時間値の変動図)

【館町測定室】

【大楽寺町測定室】

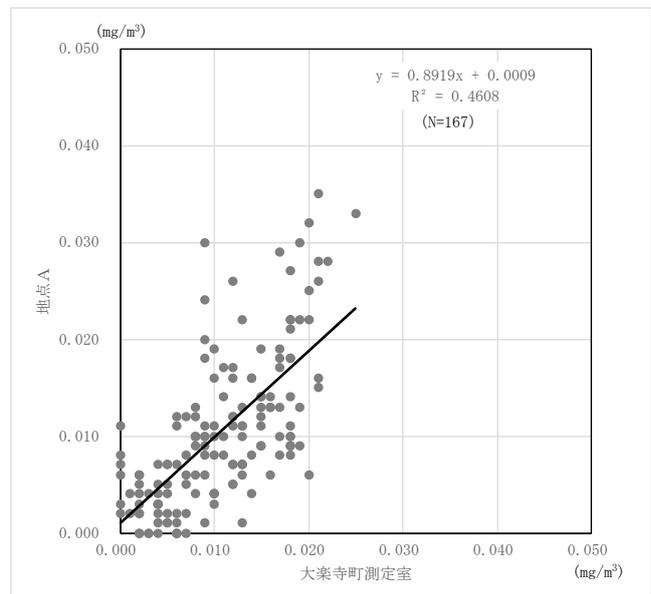
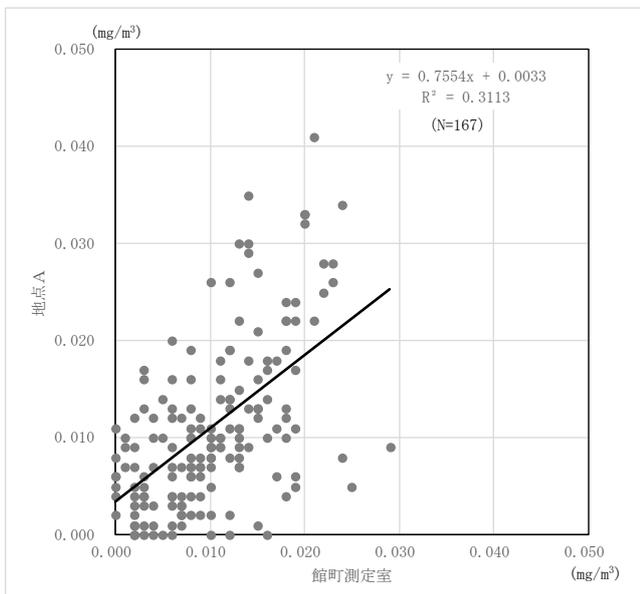


図7.1-4(2) 浮遊粒子状物質濃度の測定結果(館町測定室・大楽寺町測定室との相関)

イ 予測条件の状況

① 駐車場利用車両の状況

駐車場利用車両の状況は、表 7.1-7~9 に示すとおりである。

事後調査結果は予測条件と比べて少なかった。

表 7.1-7(1) 駐車場利用車両の状況（平日、休日別台数）

区分	事後調査結果（台／日）			予測条件（台／日）		
	小型車	大型車	合計	小型車	大型車	合計
平日	2,956	108	3,064	—	—	—
休日	3,757	100	3,857	7,310	138	7,448

表 7.1-7(2) 駐車場利用車両の状況（平日、休日別台数）

単位：台／時

時間帯	平日						休日					
	入庫台数			出庫台数			入庫台数			出庫台数		
	小型車	大型車	合計									
6-7時	0	22	22	0	15	15	0	20	20	0	14	14
7-8時	0	3	3	0	7	7	0	1	1	0	5	5
8-9時	0	22	22	0	13	13	0	21	21	0	9	9
9-10時	101	7	108	4	15	19	125	5	130	9	15	24
10-11時	334	8	342	74	12	86	400	8	408	84	12	96
11-12時	310	7	317	181	7	188	389	7	396	213	7	220
12-13時	290	6	296	236	6	242	383	6	389	281	6	287
13-14時	278	7	285	261	7	268	398	7	405	303	7	310
14-15時	265	5	270	313	5	318	409	5	414	396	5	401
15-16時	266	6	272	284	6	290	385	6	391	424	6	430
16-17時	255	6	261	318	6	324	372	6	378	454	6	460
17-18時	245	3	248	283	3	286	334	3	337	440	3	443
18-19時	262	2	264	289	2	291	279	2	281	403	2	405
19-20時	216	0	216	232	0	232	177	0	177	309	0	309
20-21時	109	1	110	212	1	213	93	1	94	255	1	256
21-22時	25	0	25	150	0	150	13	0	13	126	0	126
22-23時	0	3	3	118	3	121	0	2	2	60	2	62
23-0時	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
0-6時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	2,956	108	3,064	2,956	108	3,064	3,757	100	3,857	3,757	100	3,857

表 7.1-8(1) 駐車場利用車両の状況（入庫台数：平日内訳）

単位：台/時

時間帯	出入口①（北側）			出入口②（東側）			出入口③（西側）		
	小型車	大型車	合計	小型車	大型車	合計	小型車	大型車	合計
6-7時	0	0	0	0	22	22	0	0	0
7-8時	0	0	0	0	3	3	0	0	0
8-9時	0	8	8	0	14	14	0	0	0
9-10時	34	7	41	67	0	67	0	0	0
10-11時	117	8	125	217	0	217	0	0	0
11-12時	94	7	101	216	0	216	0	0	0
12-13時	93	6	99	197	0	197	0	0	0
13-14時	94	7	101	184	0	184	0	0	0
14-15時	79	5	84	186	0	186	0	0	0
15-16時	80	6	86	186	0	186	0	0	0
16-17時	82	6	88	173	0	173	0	0	0
17-18時	90	3	93	155	0	155	0	0	0
18-19時	85	2	87	177	0	177	0	0	0
19-20時	66	0	66	150	0	150	0	0	0
20-21時	39	1	40	70	0	70	0	0	0
21-22時	6	0	6	19	0	19	0	0	0
22-23時	0	0	0	0	3	3	0	0	0
23-0時	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0-6時	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	959	66	1,025	1,997	42	2,039	0	0	0

表 7.1-8(2) 駐車場利用車両の状況（出庫台数：平日内訳）

単位：台/時

時間帯	出入口①（北側）			出入口②（東側）			出入口③（西側）		
	小型車	大型車	合計	小型車	大型車	合計	小型車	大型車	合計
6-7時	0	0	0	0	15	15	0	0	0
7-8時	0	0	0	0	7	7	0	0	0
8-9時	0	8	8	0	5	5	0	0	0
9-10時	0	15	15	6	0	6	0	0	0
10-11時	15	12	27	57	0	57	0	0	0
11-12時	40	7	47	141	0	141	0	0	0
12-13時	58	6	64	178	0	178	0	0	0
13-14時	54	7	61	207	0	207	0	0	0
14-15時	78	5	83	235	0	235	0	0	0
15-16時	62	6	68	222	0	222	0	0	0
16-17時	93	6	99	225	0	225	0	0	0
17-18時	70	3	73	213	0	213	0	0	0
18-19時	69	2	71	220	0	220	0	0	0
19-20時	40	0	40	192	0	192	0	0	0
20-21時	31	1	32	181	0	181	0	0	0
21-22時	19	0	19	131	0	131	0	0	0
22-23時	0	0	0	118	3	121	0	0	0
23-0時	0	0	0	1	0	1	0	0	0
0-6時	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	629	78	707	2,327	30	2,357	0	0	0

表 7.1-9(1) 駐車場利用車両の状況（入庫台数：休日内訳）

単位：台/時

時間帯	出入口①（北側）			出入口②（東側）			出入口③（西側）		
	小型車	大型車	合計	小型車	大型車	合計	小型車	大型車	合計
6-7時	0	0	0	0	20	20	0	0	0
7-8時	0	0	0	0	1	1	0	0	0
8-9時	0	9	9	0	12	12	0	0	0
9-10時	48	5	53	77	0	77	0	0	0
10-11時	141	8	149	182	0	182	77	0	77
11-12時	127	7	134	163	0	163	99	0	99
12-13時	124	6	130	170	0	170	89	0	89
13-14時	139	7	146	156	0	156	103	0	103
14-15時	133	5	138	185	0	185	91	0	91
15-16時	126	6	132	160	0	160	99	0	99
16-17時	124	6	130	161	0	161	87	0	87
17-18時	123	3	126	139	0	139	72	0	72
18-19時	84	2	86	131	0	131	64	0	64
19-20時	48	0	48	103	0	103	26	0	26
20-21時	28	1	29	51	0	51	14	0	14
21-22時	2	0	2	10	0	10	1	0	1
22-23時	0	0	0	0	2	2	0	0	0
23-0時	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0-6時	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1,247	65	1,312	1,688	35	1,723	822	0	822

表 7.1-9(2) 駐車場利用車両の状況（出庫台数：休日内訳）

単位：台/時

時間帯	出入口①（北側）			出入口②（東側）			出入口③（西側）		
	大型車	小型車	合計	大型車	小型車	合計	大型車	小型車	合計
6-7時	0	0	0	0	14	14	0	0	0
7-8時	0	0	0	0	5	5	0	0	0
8-9時	0	4	4	0	5	5	0	0	0
9-10時	1	15	16	8	0	8	0	0	0
10-11時	14	12	26	65	0	65	5	0	5
11-12時	39	7	46	157	0	157	17	0	17
12-13時	57	6	63	197	0	197	27	0	27
13-14時	59	7	66	208	0	208	36	0	36
14-15時	100	5	105	252	0	252	44	0	44
15-16時	112	6	118	250	0	250	62	0	62
16-17時	127	6	133	248	0	248	79	0	79
17-18時	117	3	120	237	0	237	86	0	86
18-19時	113	2	115	235	0	235	55	0	55
19-20時	56	0	56	209	0	209	44	0	44
20-21時	41	1	42	185	0	185	29	0	29
21-22時	15	0	15	100	0	100	11	0	11
22-23時	0	0	0	60	2	62	0	0	0
23-0時	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0-6時	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	851	74	925	2,411	26	2,437	495	0	495

②気象の状況

風向・風速の測定結果は、表 7.1-10 に示すとおりである。また、測定期間中の風配図は、図 7.1-5 に示すとおりである。

事後調査結果は、予測条件と同様に西よりの風の頻度が高く、静穏率は事後調査結果の方が低かった。

表 7.1-10 風向・風速の測定結果（地点B）

項目		事後調査結果							期間	予測条件
		11/24 (金)	11/25 (土)	11/26 (日)	11/27 (月)	11/28 (火)	11/29 (水)	11/30 (木)		
風向	最多風向 (出現頻度)	W (25.0%)	W (33.3%)	WSW (20.8%)	E, W (16.7%)	W (33.3%)	WSW (29.2%)	NE (33.3%)	W (18.5%)	WNW (13.7%)
	平均	1.6	1.4	1.2	1.2	1.2	1.2	1.3	1.3	1.1
風速 (m/s)	最大	3.6	3.3	3.6	2.0	3.4	2.7	2.2	3.6	—
	最小	0.4	0.0	0.1	0.3	0.2	0.5	0.5	0.0	—
静穏率		4.2%	8.3%	8.3%	8.3%	29.2%	0%	0%	8.3%	17.3%

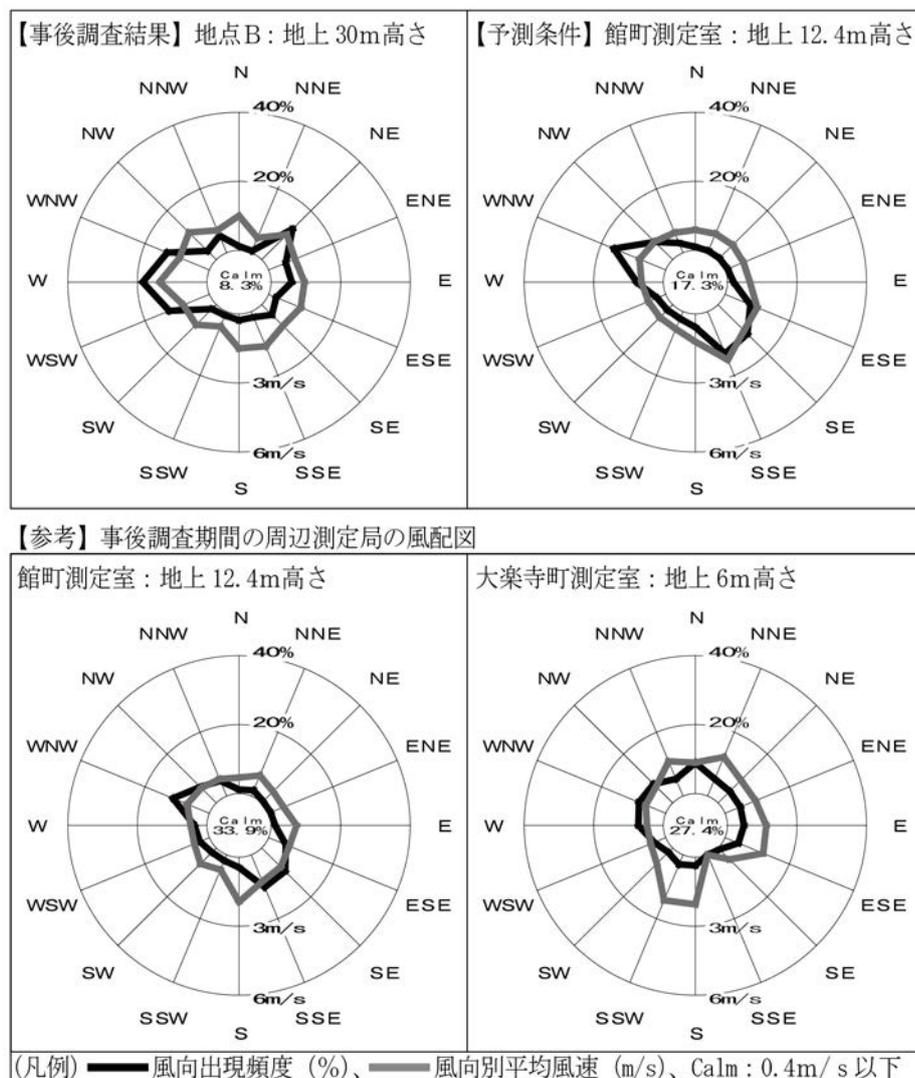


図 7.1-5 風配図

③バックグラウンド濃度の状況

測定期間中における周辺の一般環境大気測定室（館町測定室、大楽寺町測定室）の二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の測定結果は表 7.1-11 及び表 7.1-12 に示すとおりである。

二酸化窒素の期間平均値は 0.015～0.017ppm、1 時間値の最大値は 0.032～0.036ppm であり、いずれも調査地点 A に比べて低かった。浮遊粒子状物質の期間平均値は 0.010～0.011mg/m³、1 時間値の最大値は 0.029mg/m³ であり、期間平均値は調査地点 A と同程度で、1 時間値の最大値は調査地点 A に比べて低かった。

予測条件と比べると、二酸化窒素は事後調査結果が高く、浮遊粒子状物質は事後調査結果が低かった。

表 7.1-11 館町測定室、大楽寺町測定室における二酸化窒素濃度の測定結果

調査地点	有効測定日数	測定時間	期間平均値	1 時間値 の最大値	日平均値 の最大値
	日	時間	ppm	ppm	ppm
館町測定室	7	166	0.015	0.036	0.018
大楽寺町測定室	7	166	0.017	0.032	0.021
事後調査結果 (館町測定室及び大楽寺町測定室の平均値)			0.016	—	—
予測条件			0.012	—	—

※環境基準

1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm のゾーン内又はそれ以下であること。

表 7.1-12 館町測定室、大楽寺町測定室における浮遊粒子状物質濃度の測定結果

調査地点	有効測定日数	測定時間	期間平均値	1 時間値 の最大値	日平均値 の最大値
	日	時間	mg/m ³	mg/m ³	mg/m ³
館町測定室	7	167	0.010	0.029	0.015
大楽寺町測定室	7	167	0.011	0.029	0.018
事後調査結果 (館町測定室及び大楽寺町測定室の平均値)			0.011	—	—
予測条件			0.018	—	—

※環境基準

1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m³ 以下であり、かつ、1 時間値が 0.20mg/m³ 以下であること。

(2) 関連車両の走行に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度

ア 予測した事項

①二酸化窒素 (NO₂)

a. 公定法

調査地点Aにおける二酸化窒素の公定法の測定結果は表 7.1-3 及び表 7.1-4 に示すとおりである。

b. 簡易測定法 (PTIO 法)

調査地点 No. 1～5 における二酸化窒素の簡易測定法 (PTIO 法) の測定結果は表 7.1-13 に示すとおりである。

二酸化窒素の日測定値は、0.016～0.027ppm であり、期間平均値は No. 1 が 0.020ppm、No. 2 が 0.023ppm、No. 3 が 0.022ppm、No. 4 が 0.022ppm、No. 5 が 0.021ppm であった。日測定値の最大値は、No. 1 が 0.026ppm、No. 2 が 0.027ppm、No. 3 が 0.025ppm、No. 4 が 0.026ppm、No. 5 が 0.027ppm であり、参考ながら環境基準を満足している。

なお、表 7.1-13 の測定結果は地点Aで測定した公定法と簡易測定法の調査結果を用いて設定した補正式により補正した値である。補正式等は資料編 (p. 資料-3) に示した。

表 7.1-13 関連車両の走行に伴う二酸化窒素濃度の測定結果 (簡易測定法)

調査地点	日測定値 (ppm)							期間平均値 (ppm)	日測定値の最大値 (ppm)
	11/23 (木)	11/24 (金)	11/25 (土)	11/26 (日)	11/27 (月)	11/28 (火)	11/29 (水)		
No. 1	0.017	0.017	0.020	0.019	0.020	0.023	0.026	0.020	0.026
No. 2	0.020	0.023	0.023	0.022	0.021	0.024	0.027	0.023	0.027
No. 3	0.020	0.019	0.020	0.020	0.023	0.025	0.025	0.022	0.025
No. 4	0.020	0.017	0.020	0.023	0.019	0.026	0.026	0.022	0.026
No. 5	0.018	0.018	0.023	0.020	0.018	0.022	0.027	0.021	0.027
A	0.016	0.016	0.022	0.022	0.018	0.020	0.026	0.020	0.026
A (公定法)	0.015	0.018	0.021	0.021	0.017	0.022	0.026	0.020	0.026

注. 日測定値は前日午後 2 時～当日午後 2 時までの値を示す。

※環境基準

1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm のゾーン内又はそれ以下であること。

イ 予測条件の状況

①気象の状況

気象の状況は、表 7.1-10 及び図 7.1-5 に示したとおりである。

事後調査結果は、予測条件と同様に西よりの風の頻度が高く、静穏率は事後調査結果の方が低かった。

②バックグラウンド濃度の状況

バックグラウンド濃度は表 7.1-11 及び表 7.1-12 に示したとおりである。

予測条件と比べると、二酸化窒素は事後調査結果が高く、浮遊粒子状物質は事後調査結果が低かった。

③関連車両の状況

関連車両台数の調査結果は、表 7.1-7～9 に示したとおりであり、関連車両台数は予測条件と比べて少なかった。

④一般車両の状況

一般車両台数の調査結果は、表 7.1-14 に示すとおりであり、一般車両の交通量は予測条件と比べて少なかった。

表 7.1-14 一般車両台数の調査結果

地点	事後調査結果						予測条件		
	平日			休日			小型車 (台)	大型車 (台)	合計 (台)
	小型車 (台)	大型車 (台)	合計 (台)	小型車 (台)	大型車 (台)	合計 (台)			
No. 1	6,696	426	7,122	5,533	172	5,705	15,024	558	15,582
No. 2	17,113	2,324	19,437	16,001	572	16,573	23,483	862	24,345
No. 3	15,396	2,852	18,248	15,153	809	15,962	21,058	1,132	22,190
No. 4	1,511	52	1,563	789	35	824	5,281	121	5,402
No. 5	6,188	502	6,690	6,213	217	6,430	17,359	402	17,761

注. 24時間交通量の値である。

ウ 環境保全のための措置の実施状況

環境保全のための措置の実施状況は、表 6.1-1 に示したとおりである (p.23 参照)。

7.1.5 予測結果と事後調査の結果との比較検討

(1) 駐車場利用車両の走行に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度

調査地点Aにおける予測結果と事後調査結果との比較は表 7.1-15 に示すとおりである。

二酸化窒素の事後調査結果（期間平均値：0.020ppm、日平均値の最大値：0.025ppm）は予測結果（年平均値：0.012ppm、日平均値の98%値：0.026ppm）を年平均値では上回り、日平均値の最大値（98%値）は下回っていた。駐車場利用車両台数は予測条件に比べて少なかったが、評価書で設定したバックグラウンド濃度（館町測定室、大楽寺町測定室の年平均値）が0.012ppmに対して、事後調査では0.016ppm（館町測定室、大楽寺町測定室の期間平均値）であり、全体的に濃度が高い傾向にあったためであると考えられる。浮遊粒子状物質の事後調査結果（期間平均値：0.011mg/m³、日平均値の最大値：0.017mg/m³）は駐車場利用車両台数は予測条件に比べて少なく、また、バックグラウンド濃度も低かったため、予測結果（年平均値：0.018mg/m³、日平均値の2%除外値：0.044mg/m³）を下回っていた。

表 7.1-15 予測結果との比較（駐車場利用車両の走行）

調査地点	二酸化窒素 (ppm)				浮遊粒子状物質 (mg/m ³)			
	予測結果		事後調査結果		予測結果		事後調査結果	
	年平均値	日平均値の98%値	期間平均値	日平均値の最大値	年平均値	日平均値の2%除外値	期間平均値	日平均値の最大値
A	0.012	0.026	0.020	0.025	0.018	0.044	0.011	0.017
評価の指標	—	0.04 (0.04~0.06)	—	0.04 (0.04~0.06)	—	0.10	—	0.10

(参考：バックグラウンド濃度)

項目	評価書で設定したバックグラウンド濃度 (2測定室の年平均値)	事後調査時のバックグラウンド濃度 (2測定室の期間平均値)
二酸化窒素 (ppm)	0.012	0.016
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.018	0.011

注 1. 2 測定室は館町測定室、大楽寺町測定室である。

2. バックグラウンド濃度は評価書では、2測定室の年平均値を設定している。

事後調査では調査期間の期間平均値をバックグラウンド濃度として設定した。

(2) 関連車両の走行に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度

調査地点 No. 1～5 における予測結果と事後調査結果との比較は表 7.1-16 に示すとおりである。

二酸化窒素の事後調査結果は期間平均値は予測結果を上回っていたが日平均値の最大値は下回っていた。自動車交通量は予測条件よりも少なくなっているが、地域のバックグラウンド濃度が高く、期間平均値は予測結果よりも高くなっているものと考えられる。

なお、浮遊粒子状物質については調査を行っていないが、自動車交通量は予測条件に比べて少なく、予測結果を下回ると考えられる。

表 7.1-16 予測結果との比較（関連車両の走行）

調査地点	二酸化窒素 (ppm)			
	予測結果		事後調査結果	
	年平均値	日平均値の 98% 値	期間平均値	日平均値の最大値
No. 1	0.013	0.029	0.020	0.026
No. 2	0.014	0.030	0.023	0.027
No. 3	0.014	0.030	0.022	0.025
No. 4	0.012	0.028	0.022	0.026
No. 5	0.013	0.029	0.021	0.027
評価の指標	—	0.04 (0.04～0.06)	—	0.04 (0.04～0.06)

調査地点	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	
	予測結果	
	年平均値	日平均値の 2% 除外値
No. 1	0.018	0.047
No. 2	0.018	0.047
No. 3	0.018	0.047
No. 4	0.018	0.047
No. 5	0.018	0.047
評価の指標	—	0.10